



既存のアクティビティよりも、先生の考えで新規のアクティビティを！

各施設には、「自然物クラフト」「隠れ家づくり」「テント泊」等の実施できるアクティビティ（活動）があります。それらを組み合わせて、自然学校のプログラムを考えられる先生があります。南但馬自然学校のように山の施設では、当然、海のアクティビティを取り入れることは、必然的に無理です。しかし、既存のアクティビティをアレンジしたり、新しくアクティビティを創り出したりすることは可能です。子どもたちの実態を一番知っている、また、子どもたちに様々な力をつけさせたいという強い考えや願いを持っている先生方であれば、きっと色々な新規アクティビティが考えられると思います。

先日開催した第2回自然体験活動1日講座を参考に、新規アクティビティを考えてみてください。

第2回自然体験活動1日講座を開催！



平成25年10月8日（火）に、「自然を感じる」をテーマに第2回自然体験活動1日講座を開催したところ、高等学校の10年経験者研修7名を含む74名の先生方に参加いただきました。

午前中は、自然とのふれあい活動「林間ことば集め」「森のレストラン」を体験し、午後からは、午前の体験をふまえて、それぞれの班



独自のアクティビティ開発を行いました。

特に、南但馬自然学校の自然を有効に活用することと、内容もさながら、子どもたちがやってみたいなと思えるようなインパクトのある活動名称も考えながら組むよう助言しました。班ごとに各先生が知恵を出しながら進めていく様子は、活発で楽しさあふれる様子でした。自然体験に拘らずグループでの演習は、進行方法、討議内容、発表の方法等、学ぶものが多かったと思います。これらは、中学校や高等学校でも、総合的な学習の時間やNIE（新聞を教育にニュースペーパーインエデュケーション）に活用できるかと思います。

最後は、班ごとに開発したアクティビティの概要、目的、手順、留意点などを中心に発表を行いました。多くの班は、子どもたちが実践したときの様子を模擬演技形式で発表し、視覚に訴える具体的なものであり、自然学校だけでなく、小学校においては、生活科や理科、図画工作科、総合的な学習の時間等においても、取り入れてもらいたいものばかりでした。



今回の研修では、ゲームを体験するというよりも午後からの演習でやったように、先生方で新しく自然体験型のゲームを考えてもらうという事が大きなねらいでした。ゲームを楽しむというのは簡単なことですが、新しくゲームを造り出すのは難しかったかと思います。自然学校に来て

いる子どもたちが、フリータイムで遊んでいる様子を見ていても、リーダーと一緒に、リーダーに遊びを教えてもらっています。それは、それで悪いことではありませんが、子どもは遊びの天才であるので、遊びを作り出してほしいものです。残念なことに、普段でもそのようなことは出来ていないかもしれません。それぞれの班で考えられたアクティビティをぜひ、子どもたちに教えてやってほしいものです。きっと、子どもたちは、それらを子どもなりにアレンジすると思います。また、そのような子どもであってほしいですし、そのような教育をお願いしたいものです。

今回、受講して学んだことを学校教育の中に活かし、子どもたちに自然の素晴らしさや楽しさを伝えてくれることを期待したいものです。

☆参加者の感想より（一部抜粋）☆

- ・ 普段あまり経験することのない自然体験活動から**自然のすばらしさや協力することの大切、楽しさ**を学んだ。また、10年研修の先生とも一緒に活動させて頂き、色々な発想や工夫を勉強できた。
- ・ 子どもの立場に立って、活動を楽しむことができ、**指導者の立場で活動時の安全面の配慮**などを考えることができた。今回、アクティビティも考えたので、学校へ持ち帰り授業等で実践していきたい。感動する体験をするためには、**教師自身が感動する心**を持っておくことが大切だと学んだ。
- ・ アクティビティ開発は、どんなことをするか悩みましたが、グループで協力して案を出し合い、たくさんコミュニケーションもとれて楽しかったです。**自然の中を散策する**と**いろいろな発見があり**、おもしろかったです。

☆ 受講者が開発した新規アクティビティ（主なもの） ☆

1 ネイチャーフォトミッション

教師が、事前に写真を撮り、それらを子どもたちに配布し、撮影場所や実物を探し出す。

2 ビンゴハンター

自然の中からターゲットとなる自然物を探し、それらをもとにビンゴするゲーム。

3 森コレ（森のファッションショー）

自然の中にあるものを使って、オシャレな服や小物を作る。

4 森の紙しばい

身近な自然にあるものを用いて、紙しばいを作成する。

5 竹田城をつくるジョー

南但馬の歴史的建造物である竹田城を自分たちで見て、自然物を用いて復元する活動。



新規アクティビティ作成上の留意点

- ① **ねらいを持つ** 活動の目的、目標であり、子どもたちに、つけさせたい力です。「新たな発見をする」「自然を体感する」等、先生の思いであったり、願いであったりもします。
- ② **振り返り** 活動を終わったら、それで終わりではなく、子どもたちの感想でいいので、その時間を取ってください。子どもの言葉で、子どもの感性のままでもいいのです。
- ③ **リスクマネジメント** 子どもたちは、予想もしない動きをすることがあるので、想定されるすべての事に対して、未然に事故を防ぐためにも対応策を考えておかなければなりません。

編集後記

何か新しいことをするには、それなりの労力が必要になります。新規アクティビティを開発するのは大変ですが、それだけ、やりがいもあると思います。今回は、そんなことを意識して、「指導課だより」を作成しました。

（文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也）